

高校生がICT舗装現場見学

佐藤渡辺は18日、愛知県新城市池場で施工中の「令和4年度三遠道路3号トンネル新設地区舗装工事」の現場で学生向け見学会を開いた。県立岡崎工科高校の都市工学科2年生約40人が参加。トンネル内で行っているMC（マシンコントロール）対応のスリッパフォームペーパーを使用した連続RC舗装を見学し、建設業界が積極的にICTを導入していることを学んだ。

冒頭、高畑一幸執行役員中部支店長は「皆さんの学校において、同現場もMCの技術を

先輩が私たちの仲間になって活躍している。改めて建設業への理解を深める機会にしてほしい」、発注者の中部地方整備局浜松河川国道事務所の阿川晃章工務第二課長は「現場の雰囲気味わって、土木の進路を考える際の参考にしてほしい」とあいさつした。

小柳翔太郎現場代理人は工事概要や建設業界の動向を説明し、「給与、休暇、希望」の新3Kを実現するため業界全体でICTの普及を進めて

佐藤渡辺

三遠道路3号トンネルで



積極的に活用していることを紹介。生徒らはトンネル内で、トータルステーション(TS)からのデータを受信し、敷きならしの高さを自動制御でき

定している。

る技術を興味深そうに見学した。写真。

参加した高校生は「見たことのない機械が動いていて新鮮だった。想像以上にICTが導入され、建設業界が生産性向上や省力化などに向け力を尽くしていることが実感できた」と感想を述べた。

三遠南信道路の一部である三遠道路は、愛知県東栄町から浜松市北区引佐町までの延長21キロを結ぶ自動車専用道路。3号トンネルの延長は3566メートル。このうち同社は延長876メートルの舗装を担当。工期は2023年2月までを予定している。

